高校公民プリント（過去問類似）
青年期と現代社会 No.3

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

問1 19世紀のヨーロッパにおいて、自らの文明化された社会を頂点とし、非ヨーロッパ地域の社会を「未開」や「野蛮」として位置づけ、自らの価値観を基準に他地域を評価・序列化した態度は、文化の捉え方におけるどのような考え方に分類されるか。（2026年　全国公立入試　類似）

1. マルチカルチュラリズム　**2.** カルチュラルレラティビズム　**3.** エスノセントリズム　**4.** ユーロセントリズム

問2 人間にとっての有用性や道具的価値にとどまらず、人間以外の動植物や生態系そのものに固有の価値を認め、それらが存続する権利を尊重すべきであるとする環境倫理の考え方を何というか。（2021年　全国公立入試　類似）

1. 自然の生存権　**2.** 世代間の責任　**3.** 地球の有限性　**4.** 世代間の倫理

問3 意識調査によると、生活水準が「悪くなった」と感じている人ほど「努力は報われない」と考える割合が高い傾向にあり、1980年代末以降、日本社会における経済的不平等の実態が人々の意識に影を落としていることがうかがえる。現代の日本において、等価可処分所得の中央値の半分に満たない世帯で暮らす人々の割合を示す指標であり、先進国の中でも日本が比較的高い水準にあることから、格差社会の進展を示すものとして問題視されている社会的指標を何というか。（2023年　全国公立入試　類似）

1. 絶対的貧困率　**2.** 所得再分配率　**3.** 高齢者貧困率　**4.** 相対的貧困率

問4 生まれや家柄といった属性ではなく、個人の能力や努力、業績（学力や試験結果など）によって社会的地位や評価が決定されるべきであるとする考え方を何というか。なお、日本・アメリカ・イギリス・ドイツ・スウェーデンの5か国を対象とした若者の意識調査では、社会での成功要因として学歴を挙げる割合はいずれの国でも極めて低く、この考え方が単純な学歴至上主義とは異なる形で捉えられている実態が示されている。（2016年　全国公立入試　類似）

1. オートクラシー　**2.** テクノクラシー　**3.** プルトクラシー　**4.** メリトクラシー

問5 ドイツの哲学者・教育学者であるシュプランガーは、青年期において、それまで客観的に捉えていた世界から自己の内面へと関心が向かい、他者とは異なる独自の自己を意識するようになる精神的な変化を何と呼んだか。（2008年　全国公立入試　類似）

1. 発達課題　**2.** 心理的離乳　**3.** 第二の誕生　**4.** 自我のめざめ

問6 寄付の選択実験では、一人あたりの寄付金額や受け取る人数といった数値的な条件だけでなく、特定の個人の名前や顔写真の有無といった要素が選択行動や納得度に影響を与える。このように、単なる数値的な計算のみに基づいて「最大多数の最大幸福」を追求する道徳観を提示し、個人の質的な差異を考慮しない量的功利主義を提唱したイギリスの思想家は誰か。（2014年　全国公立入試　類似）

1. ベンサム　**2.** シジウィック　**3.** ミル　**4.** シンガー

問7 インターネットや携帯電話などの普及に伴い、溢れる情報の中から必要なものを主体的に選択し、その信憑性を評価して適切に活用する能力が現代社会において強く求められている。このような、メディアから得られる情報を主体的に読み解き、発信する能力を何というか。（2011年　全国公立入試　類似）

1. デジタル・ディバイド　**2.** メディア・リテラシー　**3.** ネット・リテラシー　**4.** デジタル・シチズンシップ

問8 ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーが提唱した、自己の存在を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとするもの」であると考え、あらゆる存在に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを人間の根源的な責任とする倫理思想を何というか。（2026年　全国公立入試　類似）

1. 自然の権利　**2.** 人間中心主義　**3.** 責任の原理　**4.** 生命への畏敬

問9 葛藤や欲求不満に直面した際、人間は無意識のうちに自己の崩壊を防ごうとする心の働きを示すことがある。このうち、満たされない衝動や直接的には実現できない欲求のエネルギーを、学問、芸術、スポーツ、ボランティア活動といった、社会的に価値が高いと認められる高尚な活動へと方向転換して発散させる心の働きを何というか。（2005年　全国公立入試　類似）

1. 昇華　**2.** 否認　**3.** 補償　**4.** 逃避

答え合わせ・解説 No.3

問1	**答え 3** **エスノセントリズム**	19世紀の帝国主義期に見られた、自らの文明を絶対的な基準として他地域の文化を「遅れたもの」と評価し、序列化する態度は、エスノセントリズム（自民族中心主義）の典型例である。自文化の優位性を前提に他文化を裁くこの態度は、のちに文化の多様性を認める文化相対主義などの登場によって批判的に捉えられるようになった。
問2	**答え 1** **自然の生存権**	従来の人間中心主義的な自然観では、自然は人間に利用されるための道具とみなされてきた。これに対し、人間以外の動植物や自然そのものにも固有の価値があり、生存する権利があるとする考え方が提唱された。これは、実験動物の慰霊や自然保護運動の思想的基盤ともなっている。
問3	**答え 4** **相対的貧困率**	生活水準の悪化実感と「努力が報われない」という意識の結びつきは、社会的な格差の拡大を反映している。その格差や貧困の実態を示す指標の一つが相対的貧困率である。これは、その国の所得水準（中央値）の半分に満たない所得しか得ていない人の割合を示すもので、日本はOECD加盟国の中でもこの数値が比較的高く、特に単身の若年層やひとり親世帯において深刻な問題となっている。経済的困窮が固定化することで、個人の努力だけでは現状を打破できないという意識が強まる背景となっている。
問4	**答え 4** **メリトクラシー**	イギリスの社会学者マイケル・ヤングが提唱した概念で、出自ではなく個人の能力（merit）と努力によって地位が決まる社会を指す。現代社会においては、これが学歴偏重主義や新たな格差を生む原因として批判的に議論されることもある。内閣府の意識調査において、日本を含む5か国の若者が「学歴」を成功要因として低く評価していることは、単なる学歴という指標を超えた個人の努力や才能が重視されている、あるいは学歴社会に対する冷ややかな視線を反映していると考えられる。
問5	**答え 4** **自我のめざめ**	青年期に自己の内面世界を発見し、他者とは異なる独自の自己を意識するようになる現象をこの言葉で表現した。これは、児童期から青年期への移行期における精神的な自立を示す重要な指標とされる。
問6	**答え 1** **ベンサム**	寄付の選択実験において、一人あたりの寄付金額や受け取る人数といった量的な指標だけで人々の選択や納得度が決まるわけではなく、特定の個人の情報（名前や顔写真など）が意思決定に大きく影響することが示されている。これは、すべての価値を単一の尺度で計算可能とする立場への疑問を投げかけるものである。近代において、個人の質的な違いを考慮せず、快楽と苦痛を数値化して「最大多数の最大幸福」を追求する量的功利主義を提唱したのはベンサムである。彼は、すべての快楽は質的に等しいとし、快楽計算によって社会の幸福を最大化することを目指した。
問7	**答え 2** **メディア・リテラシー**	情報化社会の進展に伴い、溢れる情報の中から必要なものを主体的に選択し、その信憑性を評価して活用する能力の重要性が高まっている。単に情報を受け取るだけでなく、その送り手の意図を批判的に分析し、主体的に活用する能力を指す。
問8	**答え 4** **生命への畏敬**	シュヴァイツァーは、自己の生命を維持しようとする意志と同様に、他者や他の生物も「生きようとする生命」を持っていると考えた。このすべての生命に対して愛と尊敬を抱き、それを尊ぶことを「生命への畏敬」と呼び、人間の根源的な責任であると主張した。
問9	**答え 1** **昇華**	満たされない欲求や衝動のエネルギーを、社会的に承認され価値があるとされる活動へと方向転換させて発散する心の働きを指す。これはフロイトらによって整理された防衛機制の一つであり、他の防衛機制（抑圧、合理化、投影など）が一時的な自己欺瞞や現実逃避の側面を持つのに対し、建設的で社会的に望ましい解決をもたらす特徴を持つ。